

## プラザ

第 41 回東京医科大学医科学フォーラム  
The 41<sup>st</sup> Medical Science Forum沢田 哲 治<sup>1)</sup> 佐々木 光 美<sup>2)</sup>  
Tetsuji SAWADA<sup>1)</sup>, Mitsuyoshi SASAKI<sup>2)</sup>

オーガナイザー

<sup>1)</sup>東京医科大学内科学第 3 講座<sup>2)</sup>東京医科大学神経生理学講座

第 41 回東京医科大学医科学フォーラムは平成 25 年 2 月 28 日 (木) 午後 6 時から東京医科大学病院教育棟 5 階講堂で開催された。

特別講演として、理化学研究所ゲノム医科学研究センター自己免疫疾患研究チームの上級研究員である鈴木亜香里先生に「ゲノムワイド関連解析による関節リウマチ関連遺伝子の同定とその機能解析」の題目でご講演をいただいた。

鈴木先生は九州大学理学部をご卒業後、ミレニアムプロジェクトとして設立された理化学研究所 (横浜) 遺伝子多型センターの関節リウマチ (RA) 関連遺伝子研究チーム (チームリーダー、東京大学アレルギーリウマチ内科山本一彦先生) の主要メンバーとして、2001 年から RA の遺伝子研究を開始され、世界的に注目度の高い PADI4・SLC22A4・FCRL3・CD244・CCR6 などの RA 関連遺伝子を同定され、さらに一連の研究結果から平成 24 年度ベルツ賞を共同受賞されています。

講演内容は多因子疾患である RA の病因について

遺伝要因と環境要因の関わりからはじまり、近年急速に進歩した遺伝子多型研究の解析手法や統計処理について分かりやすく解説していただきました。さらに、RA の特異的自己抗体である抗 CCP 抗体が認識するシトルリン化ペプチドの産生に関わる PADI4 遺伝子については、そのノックアウトマウスを用いた関節炎実験についての最先端の研究結果にも触れて頂き、PADI4 が RA の病因・病態形成に果たす役割についてご解説いただきました。今回の講演は RA に関する内容でありましたが、その研究手法は様々な多因子疾患研究に応用可能であると感じられた。

講演終了後には鈴木先生の最先端ながら分かりやすい講演内容について、活発な質疑応答が行われた。

今回のフォーラムにおいても多彩な分野から研究者の参加があり、今後の本学における基礎と臨床の横断的な研究の発展を期待させる講演会となった。

(文責: 沢田哲治)